



# 初代養父市長に 佐々木憲二氏

## 県議補選は藤田孝夫氏が当選

「平成の大合併」で篠山市以来、県内初の市町合併となった養父市の初代市長選挙の投票が五月十六日に行われ、即日開票の結果、前県議の佐々木憲二氏（五七・八鹿町浅間）が旧八鹿町長の浜道雄氏（五九・八鹿町小山）を破って当選しました。

また、佐々木氏の辞職に伴う県議補選（同市選挙区）は、菓子食品卸会社役員  
の藤田孝夫氏（四九・八鹿町上綱場）が旧八鹿町企画商工課長の勝地恒久氏（五  
四・八鹿町高柳）を破って初当選しました。

### 開かれた市政運営を



佐々木憲二市長

この度、新生養父市の市長として就任させていただきました佐々木憲二でございます。過日の市長選挙におきましては、多数のご支持をいただきまして、誠にありがとうございました。心から厚くお礼を申し上げます。

さて、平成の大合併、兵庫県の第一号として新生養父市が誕生いたしました。この養父市政を担当するということは大変大きな責任があります。これまで県会議員として約二十年間にわたって皆さんに支えていただき、その中で学んだ知識、経験あるいは人脈、こうしたものを十分に活用いたしました。まして、新生養父市のかじとりを力いっぱい取り組んでいきたいと思っております。どうぞ皆さんの温かいご支

援を賜りますようお願い申し上げます。

私は、二つのことを皆さんに申し上げたいと思っております。その一つは、時代は成長から成熟社会へと大きく移行しようとしています。そして、政治は中央集権から地方分権へと移行しつつあります。これまでのように東京で物事が決まって、地方がそれを実行していくという時代ではなく、むしろ地方、この養父市のさまざまな伝統・歴史、豊かな資源、こうしたものを十分に生かして個性を伸ばしていく時代だと思っております。今後、国の力をいただきながら、こうした個性をますます伸ばし、養父市の発展につなげ、市政運営の根幹にしようと思っております。

もう一つは、財政事情が大変厳しい状況に追い込まれていることです。行財政構造改革は避けて通れないと考えています。皆さんと一緒に頑張って、これに取り組んでいかなければならないと思っておりますが、こうした問題に取り組むうえで、私はこの市政にで